

2013年8月および9月のトカラ列島中之島のチョウ類 －キマダラセセリの再発見－

守山泰司*・金井賢一**

Butterflies of Nakano-shima (Tokara Islands) in August and September 2013 - Rediscovery of *Potanthus flavus* - Taiji MORIYAMA* and Kenichi KANAI**

はじめに

トカラ列島は奄美諸島と種子島・屋久島との間に位置している。ここには旧北区と東洋区とを分ける渡瀬ラインが悪石島と小宝島の間に提唱されている。これらの島々へのチョウの侵入、発生、定着、消滅などのデータを蓄積していくことは、南西諸島の、あるいは日本列島のチョウ相を考える上で重要である。かつては県内外の多くのアマチュア愛好家や研究者が訪れ、調査・報告が行われてきたが、2004年に昆虫保護条例が制定されたことにより、調査の機会が減少している。鹿児島県立博物館では、基礎情報の収集・発表を目的とし、当地の調査を継続しておこなっており、筆者の一人守山も2007年以降外部協力者として調査に参加してきたが、特にヒメシルビアシジミ *Zizina otis*、タイワンツバメシジミ *Everes lacturnus*、キマダラセセリ *Potanthus flavus* の3種に注目し、これまで研究してきた（例えば中峯・守山, 2010; 守山, 2012）。

ヒメシルビアシジミは、かつてはトカラ列島宝島を北限とするシルビアシジミ沖繩亜種とされていたが、近年の研究で別種とされた（Yago *et al*, 2008）。屋久島では1995年に記録があり、2008, 2009年と採集されたが、2010年以降は見られないという（福田ほか, 2013）。単純に分布域を拡大、北上しているわけではなさそうである。トカラ列島では、これまで口之島、平島、小宝島、宝島で記録されている（中峯, 2008; 守山, 2012; 金井・守山, 2013; 細谷, 私信）。記録のないその他の島々を含め、今後とも継続的な生息・分布調査の必要がある。

タイワンツバメシジミは環境省、および本県レッドリストで絶滅危惧種Ⅰ類に挙げられている希少種である（中村, 2006; 福田・二町, 2003）。本県では、か

つては種子島・屋久島・甌島などの離島を含め広く分布していたが、生息環境の悪化に伴い各地で著しく減少している。トカラ列島では、中之島、平島で記録されているのみだが、食草のシバハギは各島に分布している（平田, 1995; 中峯ほか, 2010; 金井・守山・中村, 2013）。また、トカラ列島以南の本種は沖繩亜種とされているが（藤岡, 1975）、詳しく検討されたことはないようである。生息・分布調査の継続とともに、標本資料収集が必要である。

キマダラセセリはわが国では、トカラ列島中之島を南限とし、北海道、本州、四国、九州とその周辺離島に広く分布している。一般には国内における顕著な地理的変異はないとされるが、藤岡はトカラ列島産の本種の斑紋にはやや特異な特長があると指摘している（藤岡, 1975）。これまでに得られた標本は少なく、詳細は明らかになっていないようで、その後発行された図鑑、解説書等でもそれが引用（流用）されているようである。また、1990年以降確実な採集記録は見当たらない。

以上のことをふまえ、本年は当館の調査の一環として、キマダラセセリの過去の記録が最も多い8月下旬に調査を行った。さらにその生息を確認できたことから、幼生期探索を目的に9月下旬に追加調査を行った。

なお、報告に先立ち、今回の調査のために便宜を図っていただいた十島村に厚くお礼申し上げる。また、文献の渉猟でお世話になった、福田晴夫、二町一成の両氏に深謝を表したい。

1 調査の日程（図参照）

〈第1回〉

8月23日：鹿児島発（23：00）フェリーとしま

* 鹿児島昆虫同好会

** 鹿児島県立博物館：〒892-0853 鹿児島市城山町1-1

8月24日：中之島着（6：30）
寄木～ヤルセ～大川～池原～御岳分岐～
寄木～椎崎牧場～池原～高尾～寄木

8月25日：寄木～七ツ山～池原～寄木
中之島発（11：40）フェリーとしま，鹿
児島着（19：00）

〈第2回〉

9月27日：鹿児島発（23：00）フェリーとしま

9月28日：中之島着（6：20）
寄木～七ツ山～池原～御岳分岐～寄木～
浦崎林道～高野～寄木

9月29日：寄木～ヤルセ～寄木
中之島発（11：50）フェリーとしま，鹿
児島着（19：20）

島内の移動は民宿で借りた車で行った。

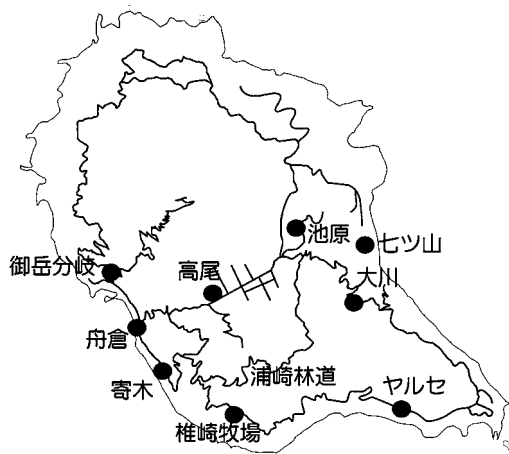


図 中之島調査地

2 調査者

〈第1回〉

守山泰司・守山小百合：鹿児島県立博物館外部協力
者，鹿児島昆虫同好会

〈第2回〉

守山泰司：鹿児島県立博物館外部協力者，鹿児島昆
虫同好会

3 調査結果

採集者は守山小百合氏が採集したものにはSと
略記し，守山泰司が採集したものは省略した。*は
意識して探したが見つからなかった種を示している。
なお，採集年は全て2013年なので省略した。

アゲハチョウ科 *Papilionidae*

アオスジアゲハ *Graphium sarpedon*

大川（1♂1♀ 24. VIII），七ツ山（少ない 28.
IX）

各地で見られたが多くはなかった。

アゲハ *Papilio xuthus*

寄木（1ex.目撃 24. VIII）

ほかには見ていない。日当たりのよいカラスザ
ンショウの幼木も注意して探したが，すべてモン
キアゲハで本種の幼虫は見られなかった。

ナガサキアゲハ *Papilio memnon*

寄木（1♀目撃 24. VIII），七ツ山（少ない 28.
IX）

各地で見られたが，少なかった。

モンキアゲハ *Papilio helenus*

池原（1♂，1♂S 24. VIII），七ツ山（少ない
28. IX）

各地で普通に見られた。カラスザンショウ，ハ
マセンダンの幼木に，幼虫も普通に見られた。

シロオビアゲハ *Papilio polytes*

寄木（1♂ 24. VIII）

サントンカを訪花していたものを採集した。ほ
かには見ていない。

カラスアゲハ *Papilio dehaanii*

ヤルセ（2♀目撃 24. VIII），高尾～舟倉（2齢幼
虫 2exs.：ハマセンダン 24. VIII），七ツ山（2♀
28. IX），池原（1♀ 28. IX），高尾（2♀ 28.
IX）

8月の調査時には少なかったが，9月の調査時に
は各地で普通に見られた。

シロチョウ科 *Pieridae*

ツマベニチョウ *Hebomoia glaucippe*

ヤルセ（4♂4齢幼虫 1ex.5卵：ギョボク 24.
VIII）（1♂2♀6卵：ギョボク 29. IX），七ツ山
（1♂目撃 25. VIII）（1♂ 28. IX）

局所的には普通に見られた。

ナミエシロチョウ *Appias paulina*

ヤルセ（1♂目撃 24. VIII）

ほかには見ていない。

キチョウ *Eurema sp.*

ヤルセ～大川（1ex. 24. VIII），大川（3exs., 1ex.
S 24. VIII），大川～池原（1ex. 24. VIII），池
原（2exs. 24. VIII），椎崎牧場（1ex. 24. VIII），
御岳分岐（2exs. 24. VIII），七ツ山（2exs., 2exs.

S 25. VIII) (5 ♂ 28. IX), 高尾～舟倉 (1 ♂ 28. IX) (1 ♂ 29. IX), 寄木 (2 ♂ 29. IX)

近年, キタキチョウ *Eurema mandarina*, キチョウ (ミナミキチョウ) *Eurema hecabe* の2種に分けられ, 後者は奄美諸島以南に分布するとされている (加藤・矢田, 2005)。その差異はごく僅かで, 特に汚損した個体の同定は困難である。今回, 明らかに後者と思われる個体も採集しているが, 精査のうえ別報する予定である。

シジミチョウ科 **Lycaenidae**

ムラサキシジ *Narathura japonica*

七ツ山 (1 ♀ S 25. VIII)

ほかには見ていない。

ヤマトシジミ *Zizeeria maha*

ヤルセ (1 ♂, 4 ♂ S 24. VIII), ヤルセ～大川 (1 ♂ 1 ♀ 24. VIII), 大川 (1 ♀, 2 ♂ S 24. VIII), 池原 (1 ♂ 2 ♀ 24. VIII), 高尾 (1 ♀ 24. VIII) (3 ♂ 3 ♀ 28. IX) (1 ♀ 29. IX), 七ツ山 (1 ♂ 25. VIII) (2 ♂ 28. IX), 寄木 (1 ♂ 28. IX)

各地で普通に見られた。

タイワンツバメシジミ *Everes lacturnus*

高尾 (7 ♂ 3 ♀ 28. IX)

中峯 (2008) に詳報されている高尾の生息地は, その後も環境の大きな変化はなく, 現在も安定した生息地となっているようである。食草のシバハギは高尾のほか, 各地の路肩などに少なからず見られた。特に島の南側, キン岳と先割岳との間の浦崎林道では繁茂していたが, 本種を見ることはなかった。舗装されてあまり時間がたっていないからかもしれない。

ルリシジミ *Celastrina argiolus*

池原 (1 ♀ 24. VIII) (1 ♀ 25. VIII), 七ツ山 (1 ♂ 28. IX), ヤルセ (1 ♀ 29. IX)

林道法面のハギ類 (ヤマハギ?) の周りでよく見られた。

ウラナミシジミ *Lampides boeticus*

寄木 (1ex. 目撃 25. VIII) (ふつう 28. IX)

海岸のノアズキ群落で普通に見られた。

アマミウラナミシジミ *Nacaduba kurava*

ヤルセ (1 ♂ 1 ♀, 1 ♂ 1 ♀ S 24. VIII) (2 ♂ 1 ♀ 29. IX), 七ツ山 (多い 28. IX)

各地の樹林帯では多数見られた。

オジロシジミ *Euchrysops anejus*

寄木 (1 ♂ 1 ♀, 若齢幼虫 1ex.: ノアズキ 25. VIII) (6 ♂ 1 ♀ 28. IX)

海岸のノアズキ群落でウラナミシジミとともに見られたが, 本種のほうが多かった。

クロマダラソテツシジミ *Chilades pandava*

池原 (1 ♂ 1 ♀ 24. VIII), 高尾 (1 ♂ 28. IX) (1 ♂ 29. IX)

近くに食樹のソテツが見られないところでも, 各地で普通に見られた。

*ムラサキツバメ *Narathura bazalus*

8月の調査時には, 僅かながら食樹のマテバシイの土用芽が展開していたが, 幼生期, 成虫ともに確認できなかった。

*ヒメシルビアシジミ *Zizina otis*

食草のヤハズソウは小さな群落が何箇所かみられたものの, 本種は今回も確認することはできなかった。安定して発生している平島, 宝島などと比べると, 食草の量が極端に少なく, それが侵入・定着を妨げているのかもしれない。

*タイワンクロボシシジミ *Megisba malaya*

食樹のアカメガシワのまわりを注意していたが, 確認できなかった。中之島には常緑の食樹, クスノキガシワが分布しておらず (北限は宝島), 定着にいたっていない可能性もある。

タテハチョウ科 **Nymphalidae**

テングチョウ *Libythea lepita*

七ツ山 (3 ♂ 1 ♀ 28. IX)

局所的, ほかでは見ていない。

ヒメアカタテハ *Vanessa cardui*

高尾 (ふつう 28. IX)

各地で普通に見られた。

アカタテハ *Vanessa indica*

高尾 (多い 28. IX)

各地で多数みられた。

ルリタテハ *Kaniska canace*

池原 (1 ♂ 24. VIII), 高尾～舟倉 (1 ♂ 24. VIII), 寄木 (1ex. 目撃 25. VIII)

各地で見られたが, 少なかった。

リュウキュウムラサキ *Hypolimnias bolina*

大川 (1 ♂ フィリピン型 24. VIII)

迷蝶, 今回, ほかには見ていない。

イシガケチョウ *Cyrestis thyodamas*

池原 (1 ♂ 24. VIII) (1 ♂ 25. VIII), 七ツ山

(1♂ 28. IX), 御岳分岐 (1♀ 28. IX)

各地で見られたが、多くはなかった。9月に見られたものは、越冬世代のような印象を受けた。

ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius*

池原 (1♂ 24. VIII), 高野 (1♂ 28. IX)

各地で見られたが、多くはなかった。

リュウキュウアサギマダラ *Ideopsis similis*

ヤルセ (1♂ S 24. VIII), ヤルセ~大川 (1♀ 24. VIII), 大川 (1♀ 24. VIII), 池原 (1♂ 24. VIII) (1♂ 25. VIII), セツ山 (2♂ 28. IX)

局所的に多かった。ヤルセで、トウワタの花に群がるように集まっていたのが印象的であった。

カバマダラ *Danaus chrysippus*

舟倉 (1♀ 24. VIII), 椎崎牧場 (終齢幼虫 1ex.: トウワタ 24. VIII), ヤルセ (1♂ 29. IX)

食草のトウワタの周辺で見られたが、少なかった。

* タテハモドキ *Junonia almana*

2007年の平島を最後に、トカラ各島の調査で見えていない。今回も注意していたが、確認できなかった。

セセリチョウ科 **Hesperiidae**

キマダラセセリ *Potanthus flavus*

池原 (1♂ 1♀, 1♂ S 24. VIII), セツ山 (8♂, 5♂ S 25. VIII) (2♂ 28. IX)

局所的に産するようで、ほかでは見えていない。

セツ山では8月25日、8:30~9:10まで沢沿いの樹上で占有行動を行っていた。同種、あるいはイシガケチョウなどを追尾し、同じ場所に戻ってくる。1頭採集すると、別の個体が同じ場所に静止している。まるでゼフィルスを見ているようであった。約40分間で、同じ場所にて2人で13

頭を採集したが、その後は降雨のため観察、採集はできなかった。9月28日、8:30にも同じ場所を訪れたが、同様の行動が見られた。9:00前に2頭目を採集したあとは、11:10まで同地にとどまったが、別の個体が現れることはなかった。発生末期で個体数が少なかったためかもしれないが、活動が早朝に限定されている可能性も否定できない。また、付近のススキなどを入念に探索したが、幼生期の確認はできなかった。

クロセセリ *Notocrypta curvifascia*

池原 (1♂, 2♂ S 24. VIII) (3♂ 25. VIII)

8月の調査時には局所的に多数みられたが、9月の調査時にはまったく見られなかった。

チャバネセセリ *Pelopidas mathias*

大川~池原 (1♀ 24. VIII), 池原 (1♂ S 24. VIII), 高尾 (1♂ 28. IX)

少ない。

イチモンジセセリ *Parnara guttata*

大川~池原 (1♂ 24. VIII), 高尾 (1♂ 28. IX), ヤルセ (1♂ 1♀ 29. IX)

8月の調査時にはこの2頭以外には見られなかったが、9月の調査時には多数見られた。

4 キマダラセセリに関する考察

トカラ列島におけるキマダラセセリの記録をまとめてみた(表)。本種の記録は少なく、今回渉猟できたものは7編11例であった(1953年に調査した宮本の記録は、オリジナルのNymph, 2:33-41を入手することができず、別報の紀行文より採集時期を推察した)。

初記録は1953年、最終記録は1989年で、以降20年以上記録がなかった。少なくとも、昆虫保護条例の制定された2004年以前には、多くの愛好家が当地

表 トカラ列島におけるキマダラセセリの過去の採集記録

年	月日	採集地	個体数	文献
1953	5月25日~6月13日	中之島	不明	宮本ほか, 1954
1969	8月20日	中之島	1♀	藤岡, 1975
1971	8月19日	中之島	1♂	坂下, 1976
1973	8月27日	口之島	1♀	藤岡, 1975
1973	9月1日	中之島	1頭	西山, 1974
1974	8月24~26日	中之島	4頭	坂下, 1976
1974	8月27日	口之島	1♂ 1♀	坂下, 1976
1974	8月28日~9月2日	中之島	6頭	西山, 1974
1977	7月20日	中之島	1頭	井上ほか, 1979
1977	8月31日~9月5日	中之島	8頭	高橋, 1978
1989	9月2日	口之島	1頭	田中, 1991

を訪れていたはずである。既知記録地であるため報告されなかった可能性も否定はできないが、一般的なチョウ類の発生は4月～5月上旬, 7月～8月上旬にピークがあり, 本種の発生時期に訪れるものが少なかったためとも考えられる。また, 定期船の利便性向上により, 短い滞在期間で訪れることが可能となった反面, 調査地が限定され局地的に産する本種と遭遇する機会がなかった可能性もある。

採集時期は8月下旬～9月上旬が多い。南九州, あるいは種子島・屋久島における周年経過から推測すれば, 5月下旬～6月と8月中旬～9月上旬の年2回の発生の可能性が高い。今回の調査でも, 8月24, 25日の採集個体は数頭をのぞいては新鮮で, それと合致する。しかしながら, 1977年7月20日に採集記録があり, 今回の9月28日採集の1♂が新鮮であったことを考え合わせると, 年3化の可能性も否定できない。更なる調査が必要である。

既知記録地は中之島と口之島である。中之島の産地は局所的ではあるが, その制限要因は不明である。諏訪瀬島, 悪石島には生息しないのか。口之島での再確認とあわせ, 調査を行いたい。

地理的変異については, 今回は♀が1頭しか採集できず, 論ずるには至らなかった。今後の課題としたい。

引用文献

- 藤岡知夫 (1975) 日本蝶類大図鑑. 312 + Pl. 137pp. 講談社, 東京.
- 福田晴夫 (1961) 鹿児島県産蝶類文献目録. 306pp. 鹿児島昆虫同好会, 鹿児島.
- 福田晴夫・田中洋 (1962) 鹿児島県の蝶類. 355pp. 鹿児島昆虫同好会, 鹿児島.
- 福田晴夫 (1972) 鹿児島県産蝶類分布表. SATSUMA, 64 : 127-139.
- 福田晴夫 (1982) 鹿児島県産蝶類の分布表. 鹿児島県立博物館研究報告, 1 : 22-35.
- 福田晴夫・守山泰司 (2013) 鹿児島県産チョウ類の分布ノート. SATSUMA, 150 : 3-40.
- 福田晴夫・二町一成 (2003) タイワンツバメシジミ. 鹿児島県の絶滅のおそれのある動植物 (動物編) (鹿児島県) : 180.
- 平田浩 (1995) 陸上の生物 (植物). 十島村誌 : 56-146.
- 井上栄明・松本修治・木野田毅 (1979) トカラ・中之島採集報告. LEBEN, 17 : 22-30.
- 金井賢一・守山泰司 (2012) 2010年10月口之島・中之島における昆虫記録. 鹿児島県立博物館研究報告, 31 : 67-72.
- 金井賢一・守山泰司 (2013) 2011年4月と10月の口之島における昆虫記録. 鹿児島県立博物館研究報告, 32 : 11-16.
- 金井賢一・守山泰司・中村京平 (2013) 2011年10月の悪石島における昆虫記録. 鹿児島県立博物館研究報告, 32 : 17-22.
- 加藤義臣・矢田脩 (2005) 西南日本および台湾におけるキチョウ2型の地理的分布とその分類学的位置. 蝶と蛾, 56 : 171-183.
- 宮本正一・中根猛彦・上野俊一 (1954) 吐噶喇採集記. 新昆虫, 7 (1) : 24-27.
- 宮本正一・中根猛彦・上野俊一 (1954) 吐噶喇採集記 (2). 新昆虫, 7 (2) : 28-34.
- 守山泰司 (2012) トカラ口之島のヒメシルビアシジミ 1999年の記録. SATSUMA, 148 : 152.
- 中峯浩司 (2008) トカラ列島平島及び中之島の昆虫 (2007年秋). 鹿児島県立博物館研究報告, 27 : 83-92.
- 中峯浩司・守山泰司 (2010) 2009年秋トカラ列島口之島・諏訪瀬島・宝島のチョウ. 鹿児島県立博物館研究報告, 29 : 55-64.
- 中村康弘 (2006) タイワンツバメシジミ南西諸島亜種. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 (5) 昆虫 (環境省) : 79.
- 西山保典 (1974) 青い島をたずねて (トカラ列島・中之島採集紀行). SATSUMA, 68 : 74-84.
- 坂下茂 (1976) トカラ列島蝶類調査報告. 早稲田生物, 18 : 65-75.
- 高橋宏 (1978) トカラ列島中之島採集記. ちょうちょう, 1 (12) : 9-17.
- 田中章 (1991) 1989年9月トカラ列島・口之島の蝶類とトンボ類. SATSUMA, 103 : 93.
- Masaya Y., Norio H., Mariko K., Tetsuo T., Minru I., Min W., Mark W. & Rei U. (2008) Molecular systematics and biogeography of the genus *Zizina* (Lepidoptera: Lycaenidae). Zootaxa, 1746 : 15-38.